

「読者」の意味

図書館長

竹内 真彦

「私のお薦め本コンテスト」は、2023年度で12回目を迎えました。応募者は22名でした。優秀作品が図書館HPに掲載されています。是非ご一読を。

お薦め本に限らず、図書館には膨大な本が所蔵されています（電子書籍もあります）。多くの方が様々な形でこれらの本を利用するわけですが、蔵書量が膨大であるだけに、どうしても「ほとんど利用されない本」が存在しています。ともすれば、一度も利用されたことがない本もあるのかも知れません（図書館スタッフとしては望ましいことではないのですが）。

それでは、そのような「利用されない本」には何が書いてあるのでしょうか？ これは原理的には「分からない」というのが正しいのでしょうか。ある本に何が書かれているのか？ それを決める「権利」はその本の「読者」しか持ち得ません。言葉を換えれば、読者は本に命を吹き込むのだ、ということもできるでしょう。

また、その命の「形」は、たとえ同じ本であっても読者ごとに違います。具体的に言うのであれば、この「お薦め本コンテスト」に寄せられた作品は、応募された方の作り出されたお薦め本の「形」であり、今、この文章を読んでいる皆さんが同じお薦め本をよんでも、同じ「形」になることはありません。

これまた言葉を換えれば、読書とは「創造する行為」だということもできるでしょう。そして、いますぐに始められる行為でもあります。というわけで、（お時間が許せば）是非今すぐ図書館へ。

ちなみに、お薦め本は「龍谷大学図書館に所蔵されていること」が条件となっておりますので、ここに掲載された本はすべて図書館に所蔵されています。興味を持たれた本があれば、これも探してみてください。

そして、来年度は是非この「私のお薦め本コンテスト」にご参加して下さったら嬉しいです。我々はたくさんの皆さんのご参加をお待ちしています。